

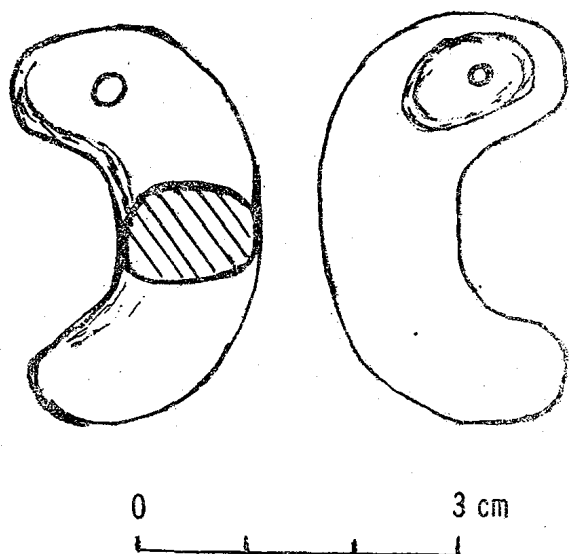
Title	青森県八戸市類家発見の勾玉
Sub Title	
Author	江坂, 輝弥(Esaka, Teruya)
Publisher	三田史学会
Publication year	1964
Jtitle	史学 (The historical science). Vol.37, No.2 (1964. 8) ,p.84(200)- 84(200)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	余白録
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19640800-0084

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

青森県八戸市類家発見の勾玉

八戸市立第一中学校に黝黒色をした碧玉類似の岩石でつくられた図示したような勾玉が一点所蔵されていた。



り、この付近でこの土師器が使用されていた時代につくられた勾玉であると考える。岩手県二戸郡福岡町からは

この勾玉は昭和三

二年に同校生徒が

八戸市類家の帽子

屋敷貝塚（縄文前

期の貝塚）の近く

の道路上で表面採

集したものであ

る。付近の畑地か

らは土師器の破片

も発見されてお

アメ色をしたコの字形の瑪瑙製の勾玉が円墳から発掘されている。この瑪瑙製のコの字形の勾玉は静岡県から関東、福島県方面の横穴式古墳からかなりの量発見されており、東日本の古墳時代末期の代表的遺物と見做される。このような標品が岩手県北部の古墳に副葬品として埋納された時期は、奥羽南部や関東地方に比較すると若干の時間的ずれは考えられるかと思うが、大きなへだたりはないのでなかろうか。

八戸市類家発見のこの勾玉も前記した瑪瑙製の勾玉に近い体形をした所謂コの字形勾玉であり、前記の円墳出土の勾玉と略同時代のものと考えられる。私達は昭和三年の夏八戸市根城字久保で小円墳群のうちの数基を発掘調査したことがあったが、この古墳からは直刀、須恵器の提瓶、ガラス小玉などが発見されている。ここに資料紹介したのは一点の表面採集の勾玉であるが、この勾玉を通じてみちのくの八戸周辺の地まで、古墳時代の末期に近い時期の文化が浸透してきていたことを示すものとして重要な資料と考える。（江坂輝弥）